令和８年度地域連携周産期医療体制モデル事業
（無痛分娩連携モデル事業）

山内 正憲
東北大学麻酔科学・周術期医学分野　教授
日本麻酔科学会　副理事長
日本周産期麻酔科学会　理事
第6回日本周産期麻酔科学会　会長

2026年度宮城県周産期医療協議会
2026年10月27日（火）午後4時
宮城県庁会議室

本日の内容

- 無痛分娩の状況
- 無痛分娩の課題
- 2026年度無痛分娩の体制構築　宮城県モデル事業の状況
- 宮城県内における分娩施設の課題と支援ニーズ
- 2027年度の目標

無痛分娩とは

■分娩時の痛みを軽減

→ 社会的な関心とニーズが高まっている

安全性の確立

■妊産婦の身体的・精神的負担を和らげる

→ 脳血管・心疾患合併妊婦への対応

妊産婦の心身の負担軽減

■用語　無痛分娩 ↔ 分娩時鎮痛

無痛分娩の課題

■ 無痛分娩の技術的な課題
- 効果の個人差
- 合併症，胎児モニターの解釈
- 分娩第2期の延長，陣痛促進薬の使用
- 吸引・鉗子分娩など産科的介入の増加

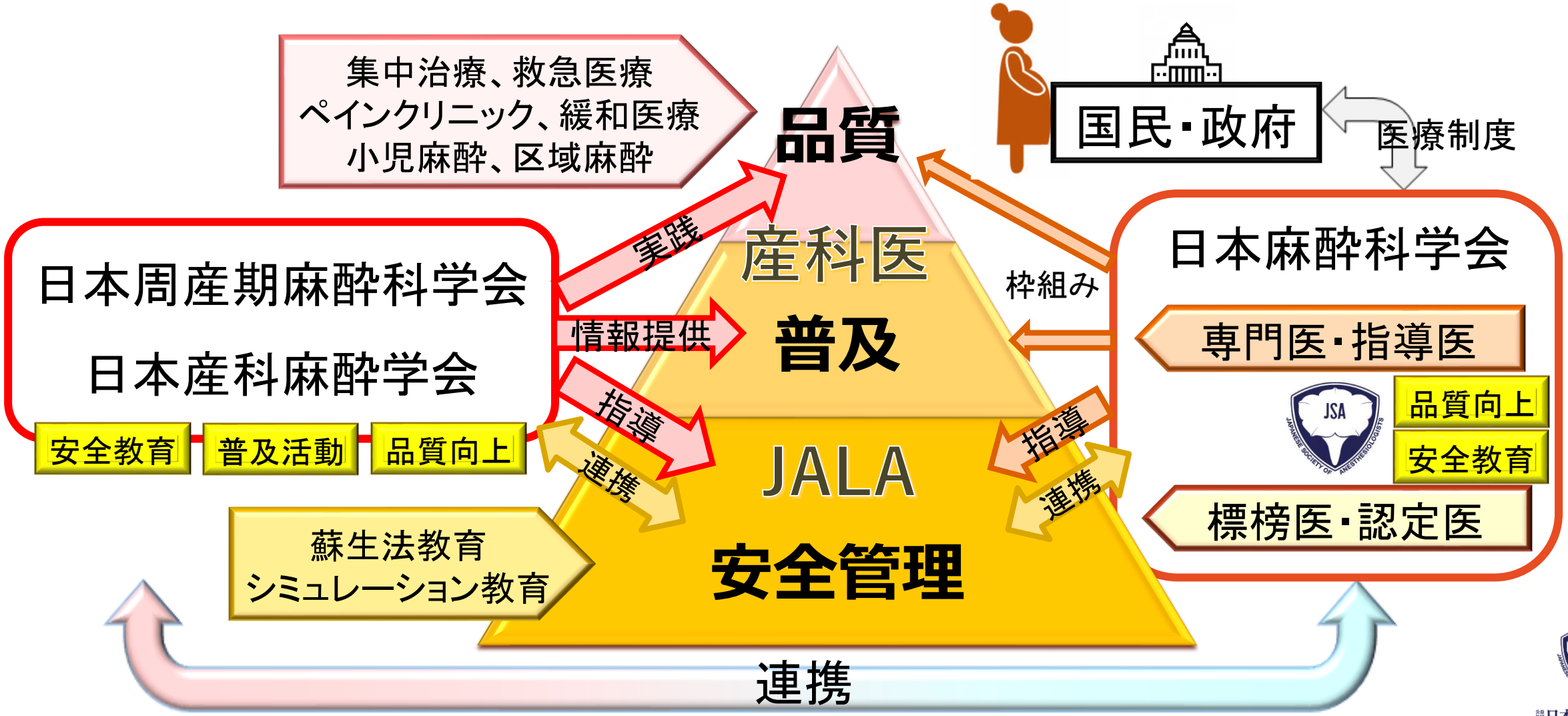
■ 妊婦の課題
- 経済的負担．無痛分娩への理解

■ 行政の課題
- 国及び関係学会の検討結果を確認し、無痛分娩に関する実情を踏まえながら、県内周産期医療体制における無痛分娩の位置付けの整理

■ 施設・医師による違い
- 鎮痛方法
- 開始のタイミング（合併症のある分娩 → 計画分娩 → 自然分娩 → 24時間対応）
- 麻酔担当医の専門性の違い，産科医・助産師の習熟度
- 緊急時・合併症対応

麻酔科医の無痛分娩への取り組み　2021.7.29厚労省医政局説明資料

～安全で質の高い周産期麻酔を目指す～



厚生労働省の広報

平成29年度厚生労働科学特別研究事業　「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」

「無痛分娩」を考える
妊婦さんとご家族の皆様へ



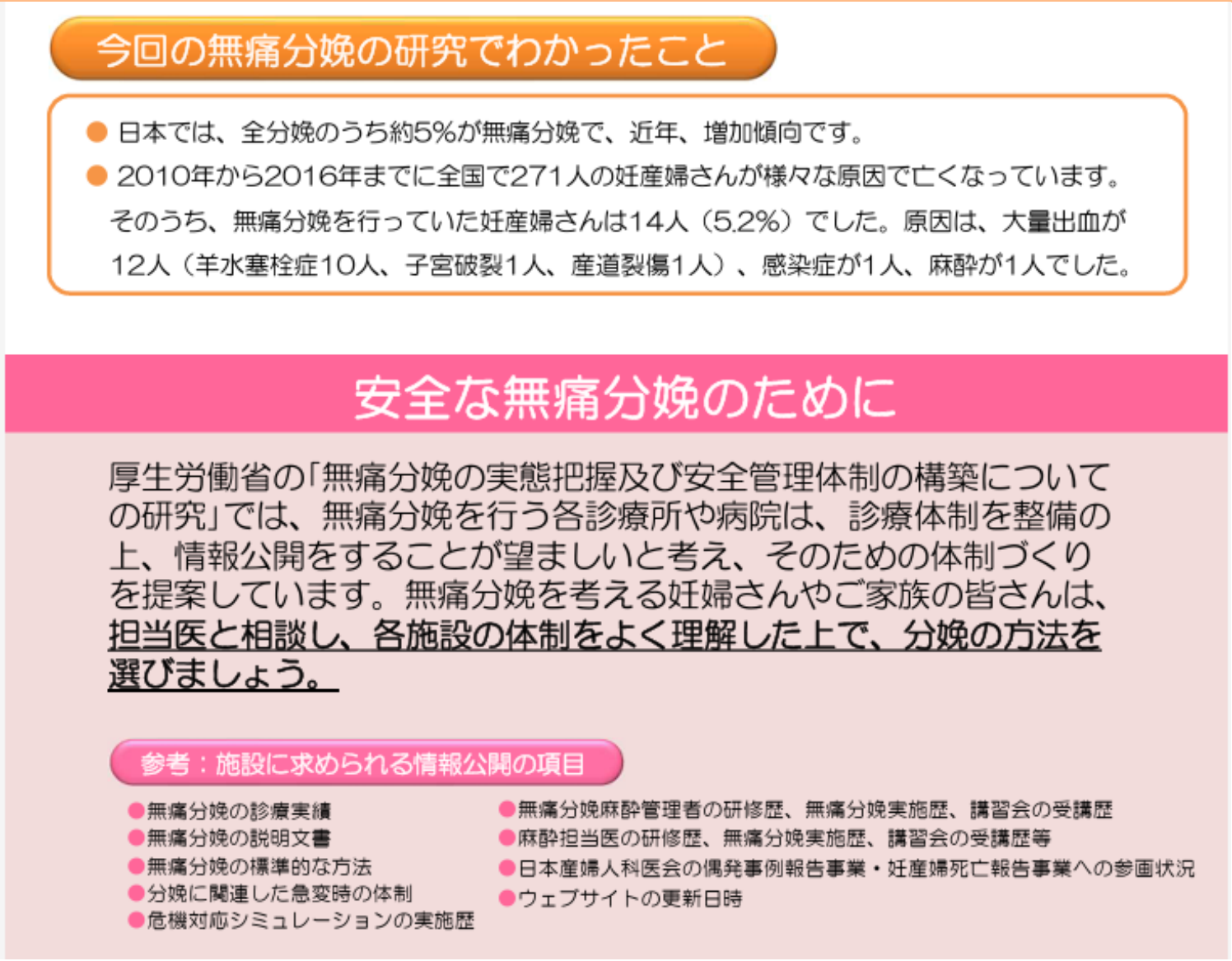
「無痛分娩」は陣痛の痛みを麻酔を使って和らげるお産の方法です。
ここでは一般的に行われる“硬膜外鎮痛法（こうまくがいちんつうほう）”という下半身の痛みを和らげる方法を説明しています。

無痛分娩のメリットは？

- 心臓や肺の調子が悪い妊婦さんの、呼吸の負担を和らげ、体の負担を軽くします。
- 血圧が高めの妊婦さんの、血圧の上昇を抑えることができます。
- 痛みを和らげることができ、産後の体力が温存できたと感じる人が多いと言われています。

https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001089301.pdf

厚生労働省の広報



今回の無痛分娩の研究でわかったこと

- 日本では、全分娩のうち約5%が無痛分娩で、近年、増加傾向です。
- 2010年から2016年までに全国で271人の妊産婦さんが様々な原因で亡くなっています。そのうち、無痛分娩を行っていた妊産婦さんは14人（5.2%）でした。原因は、大量出血が12人（羊水塞栓症10人、子宮破裂1人、産道裂傷1人）、感染症が1人、麻酔が1人でした。

安全な無痛分娩のために

厚生労働省の「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」では、無痛分娩を行う各診療所や病院は、診療体制を整備の上、情報公開をすることが望ましいと考え、そのための体制づくりを提案しています。無痛分娩を考える妊婦さんやご家族の皆さんは、担当医と相談し、各施設の体制をよく理解した上で、分娩の方法を選びましょう。

参考：施設に求められる情報公開の項目

- 無痛分娩の診療実績
- 無痛分娩の説明文書
- 無痛分娩の標準的な方法
- 分娩に関連した急変時の体制
- 危機対応シミュレーションの実施歴
- 無痛分娩麻酔管理者の研修歴、無痛分娩実施歴、講習会の受講歴
- 麻酔担当医の研修歴、無痛分娩実施歴、講習会の受講歴等
- 日本産婦人科医会の偶発事例報告事業・妊産婦死亡報告事業への参画状況
- ウェブサイトの更新日時

- メリット, リスク, 方法
- 研究による重症な随伴症
- 情報公開の重要性

→妊産婦と家族が選択できる体制

厚生労働省　2025年都道府県への再周知

医政地発 0515 第 1 号
令和 7 年 5 月 15 日

各 都道府県 保健所設置市 特別区 衛生主管部（局）長殿

厚生労働省医政局地域医療計画課長
（公印省略）

無痛分娩に関する取組の再周知について

無痛分娩については、「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」（平成 30 年 4 月 20 日付け医政総発 0420 第 3 号・医政地発 0420 第 1 号厚生労働省医政局総務課長・地域医療計画課長連名通知）及び「無痛分娩の安全な提供体制の構築について（補足）」（令和 3 年 7 月 5 日付け医政総発 0705 第 1 号・医政地発 0705 第 1 号厚生労働省医政局総務課長・地域医療計画課長連名通知）により、「無痛

無痛分娩の安全な提供体制

- 自主点検表
- JALA活動：研修，情報公開，研究

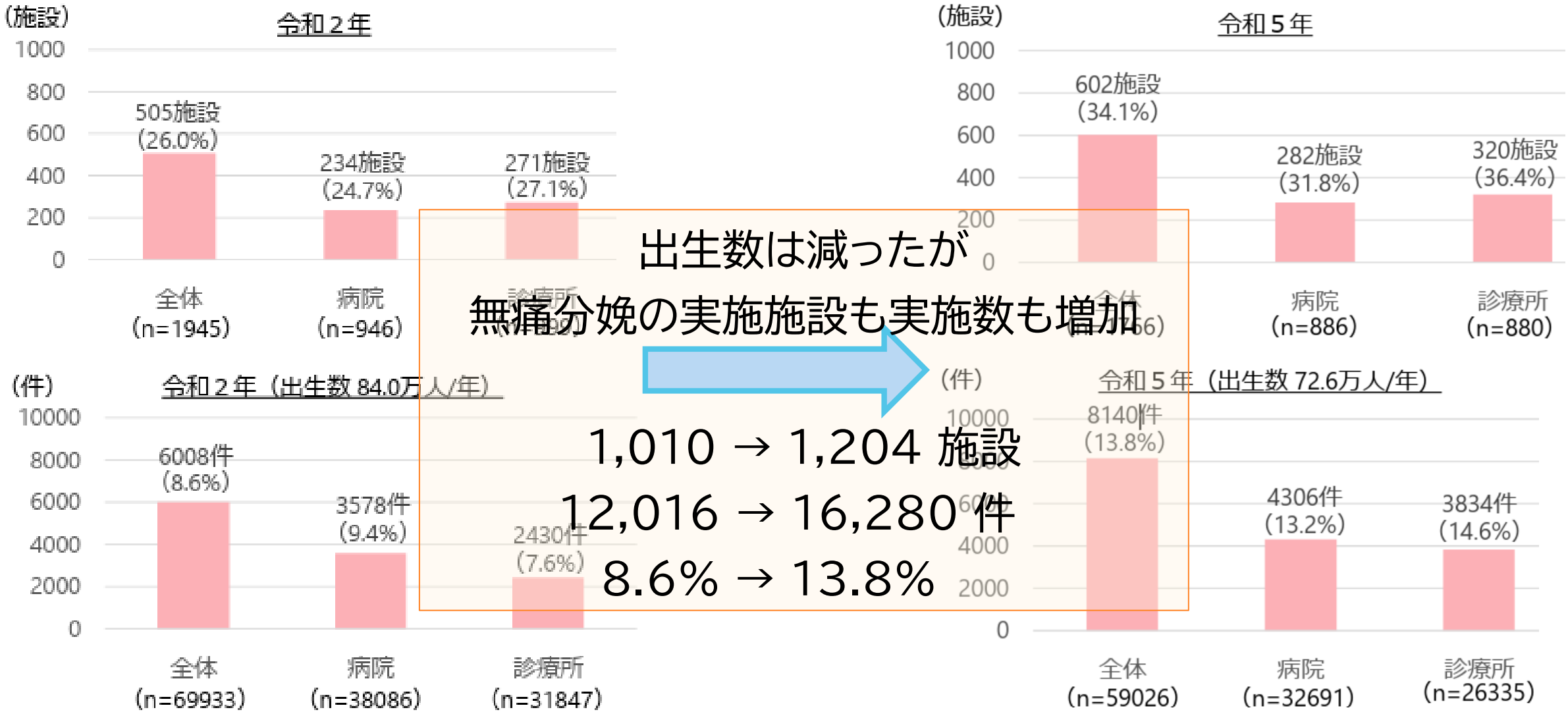
宮城県も基本的にこの活動を行う

厚生労働省　2026年資料



https://www.mhlw.go.jp/content/10802000/001658011.pdf

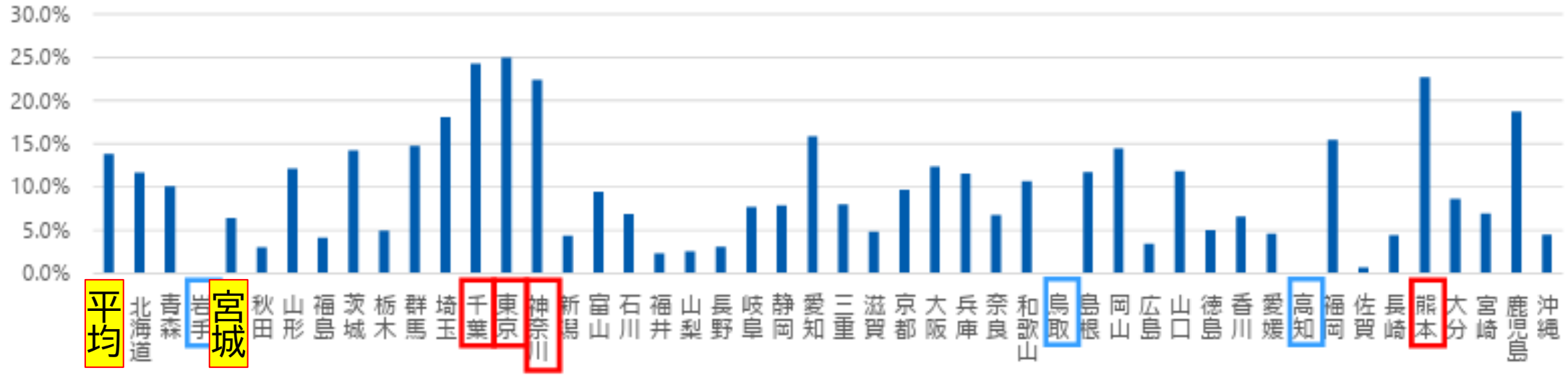
無痛分娩の実施状況


(施設)
令和２年
1000
800
600
400
200
0
505施設
(26.0%)
234施設
(24.7%)
271施設
(27.1%)
全体
(n=1945)
病院
(n=946)
(施設)
令和５年
602施設
(34.1%)
282施設
(31.8%)
320施設
(36.4%)
病院
(n=886)
診療所
(n=880)
出生数は減ったが
無痛分娩の実施施設も実施数も増加
1,010 → 1,204 施設
12,016 → 16,280 件
8.6% → 13.8%
(件)
令和２年（出生数 84.0万人/年）
10000
8000
6000
4000
2000
0
6008件
(8.6%)
3578件
(9.4%)
2430件
(7.6%)
全体
(n=69933)
病院
(n=38086)
診療所
(n=31847)
(件)
令和５年（出生数 72.6万人/年）
8140件
(13.8%)
4306件
(13.2%)
3834件
(14.6%)
全体
(n=59026)
病院
(n=32691)
診療所
(n=26335)

無痛分娩の実施割合　2023年

- 令和５年９月時点では、東京都、千葉県、神奈川県、熊本県では分娩のうち約25%が無痛分娩であるが、一方で岩手県、鳥取県、高知県では、無痛分娩は０件であった。なお、鳥取県と高知県においては、その後無痛分娩が実施されている。

医療機関での分娩のうち、無痛分娩（帝王切開を除く）の割合（令和５年９月の１か月の実績）

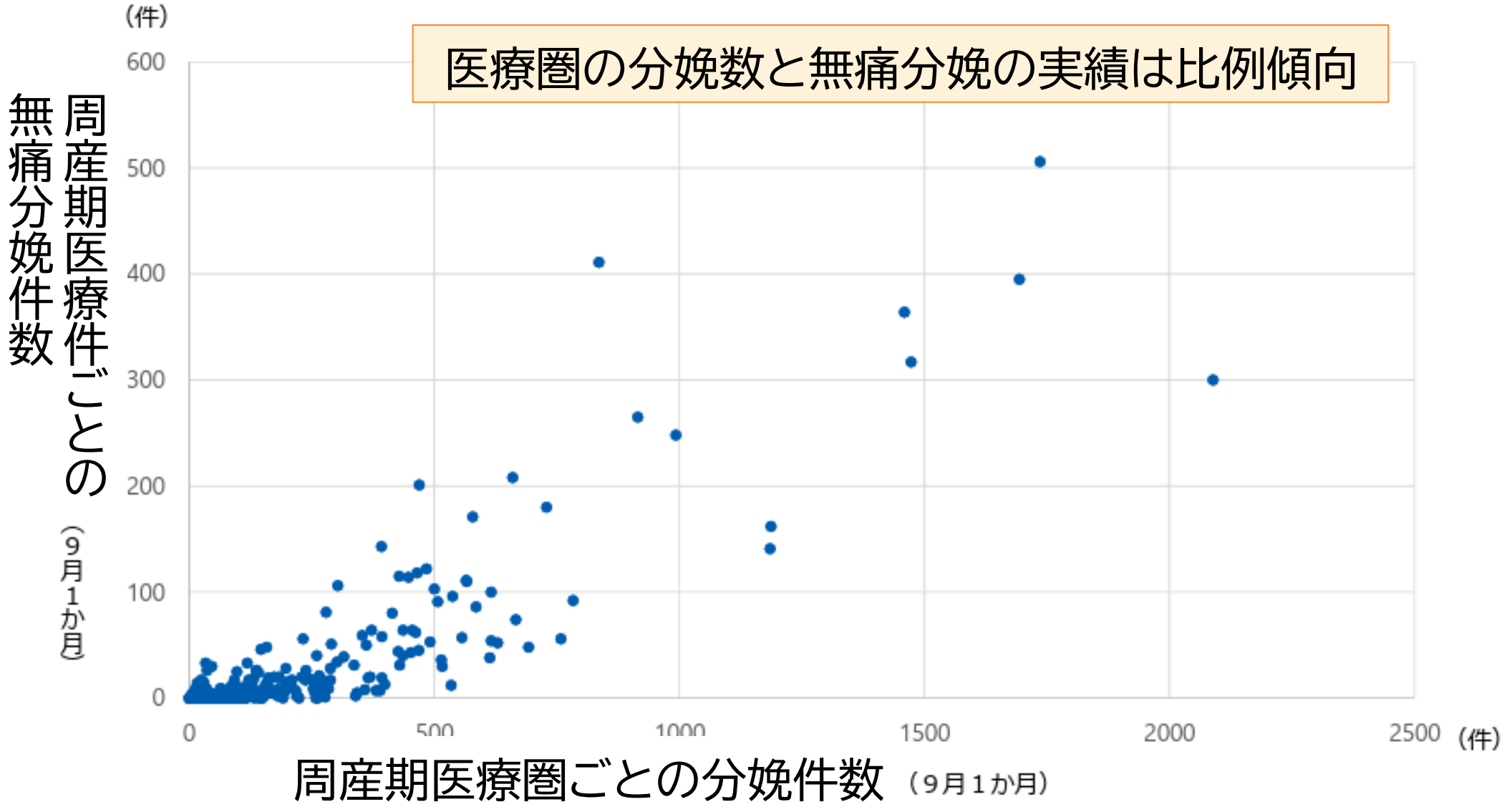


宮城県はR2全国平均レベル

高知県が最後

周産期医療圏ごとの無痛分娩の実施状況

医療圏の分娩数と無痛分娩の実績は比例傾向



8

※令和６年４月１日時点の周産期医療圏と、令和５年医療施設調査における９月１か月の実績を基に作成。

周産期医療の体制構築に係る指針

■母子に配慮した安全で質の高い周産期医療の提供体制

・自主点検表の作成

・JALAへの参画： 研修, 情報公開, 有害事象分析

・麻酔科医・産科医・助産師の習熟

・医療機関の実情を踏まえた対応を推進

東京都： 急変対応研修, 立ち入り検査

高知県： 高知大学麻酔科の人材育成を支援

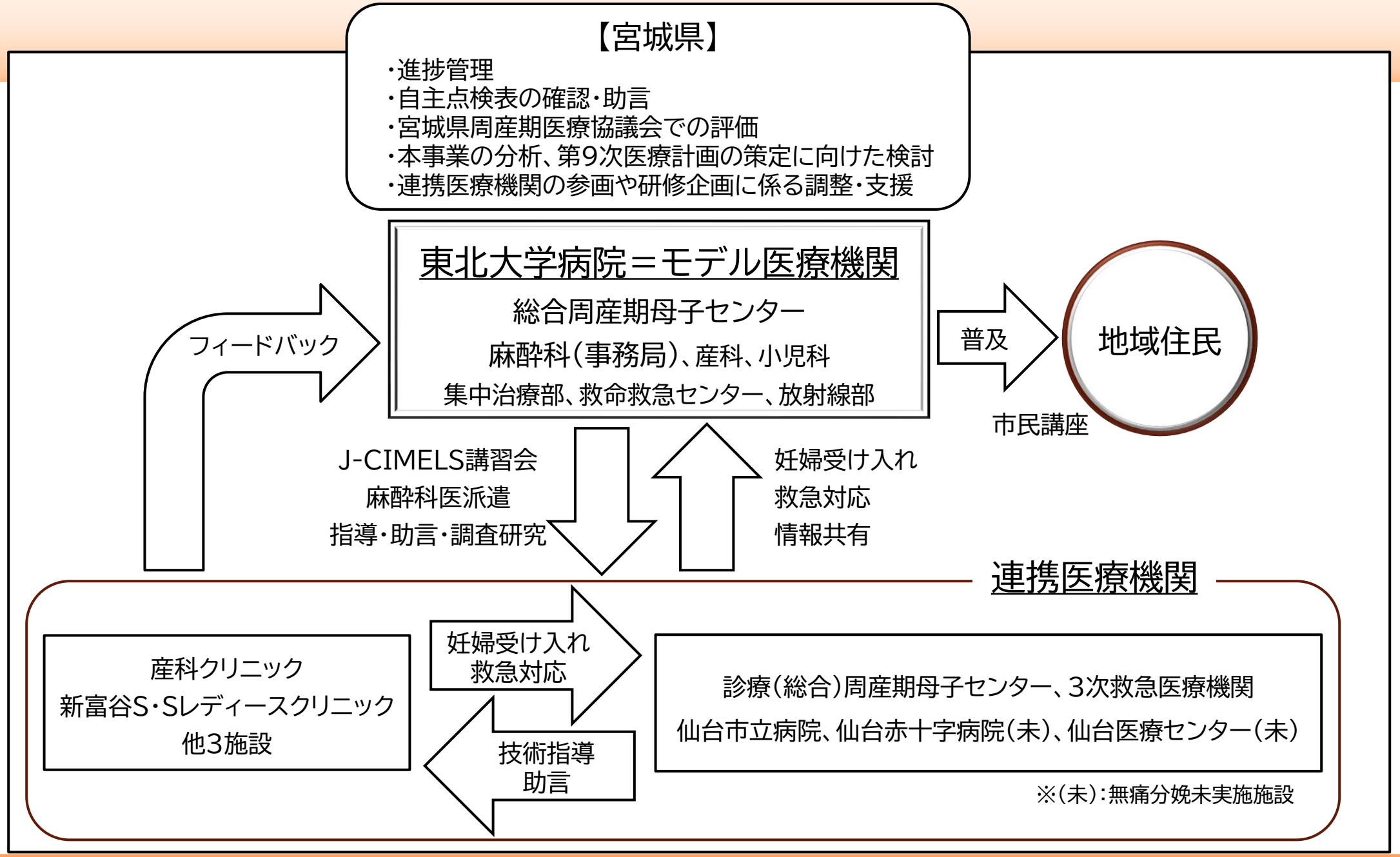
・安全な無痛分娩の実施： 外来, 助産師, 産後ケア, 母子保健

■費用の見える化と自己負担無償化

・妊婦の正しい理解の推進： リーフレットによる周知

・妊婦検診と出産費用の無償化への支援

令和8年度無痛分娩の体制構築宮城県モデル事業　安全で質の高い無痛分娩体制の構築と普及



宮城県　無痛分娩提供体制の構築：2026年度事業

- 安全体制の構築
  - 自主点検票の確認
  - 勉強会による情報交換
  - 第6回日本周産期麻酔科学会
  - J-CIMELS講習
- 情報公開：JALAのHPへの掲載
- 啓発活動：市民公開講座
- 麻酔科医の派遣（まだ充足していない）

施設名	麻酔科医数
東北大学病院	43
仙台市立病院	13
仙台医療センター	11
仙台赤十字病院	6
東北公済病院	7
宮城県立こども病院	6
大崎市民病院	11
石巻赤十字病院	9
気仙沼市立病	2
合　計	108名

宮城県　無痛分娩提供体制の構築：　自主点検表

■ 本年度対象施設　7＋1施設

- 総合周産期母子センター：　東北大学病院, 仙台赤十字病院
- 地域周産期母子センター：　仙台市立病院、仙台医療センター
- 診療所：　新富谷SSレディースクリニック, メリーレディースクリニック
  セイントマザークリニック, わんや産婦人科
  関井クリニック（年度内の追加）

■ 対象外の地域周産期母子センター　5施設

- 仙台市内：　東北公済病院, 宮城県立こども病院
- 仙台市外：　大崎市民病院, 石巻赤十字病院, 気仙沼市立病院

宮城県　無痛分娩提供体制の構築：JALA HP掲載

■ 本年度対象施設

- 総合周産期母子センター：　東北大学病院, 仙台赤十字病院
- 地域周産期母子センター：　仙台市立病院、仙台医療センター
- 診療所：　新富谷SSレディースクリニック, メリーレディースクリニック
  セイントマザークリニック, わんや産婦人科

■ 対象外の地域周産期母子センター

- 仙台市内：　東北公済病院(済), 宮城県立こども病院
- 仙台市外：　大崎市民病院, 石巻赤十字病院, 気仙沼市立病院

宮城県　無痛分娩提供体制の構築：　勉強会の開催・参加

■ 東北大学病院勉強会
- 毎月1回　産科医, 麻酔科医, 助産師, 診療所の産科医・助産師

■ JALA・J-CIMELS講習会
- 10月3日(土)　カテゴリーC・J-MELSベーシックコース
- 10月4日(日)　カテゴリーB ・J-MELS硬膜外鎮痛急変対応コース

  午前：医師向け, 午後：医療スタッフ向け
- 1月16日(土)　麻酔科医向けコース
- 2月20日(土)　初心者医師向けワークショップ, 助産師向けワークショップ
- 2月21日(日)　カテゴリーC・J-MELSベーシックコース

■ 学会派遣
- 9月19-20日：第31回日本心臓血管麻酔学会(麻酔科医3名, 臨床工学技士1名)
- 11月12-14日：第46回日本臨床麻酔学会(麻酔科医7名, 医学生1名, 予定)
- 2月20-21日：第6回日本周産期麻酔科学会　開催

  (麻酔科医10名, 産科医3名, 助産師5名, 予定)

宮城県　無痛分娩提供体制の構築：　市民公開講座

テーマ　無痛分娩を知ろう
日時　2027年2月21日(日) 16:00-17:00
会場　フォレスト仙台
対象　一般市民50-100名程度
共催　東北大学病院, 第6回日本周産期麻酔科学会
後援　宮城県, 宮城県産婦人科医会
講師　富田美弥(産科医, 講師), 関根智宏(麻酔科医, 助教)
　　吉田美香子(助産師, 教授)
司会　山内正憲(麻酔科医, 教授)

今後の取り組み

■2026年度

- 安全体制の構築
  - 勉強会による情報交換
  - J-CIMELS講習
- 質の向上
  - 第6回日本周産期麻酔科学会開催
  - 関連学会への参加
- 情報公開：JALAのHPへの掲載
- 啓発活動：市民公開講座
- 麻酔科医の派遣　計108名

■2027年度

- 安全体制の構築・麻酔担当医の育成
  - 勉強会による情報交換
  - JALA/J-CIMELS講習
  - 産科危機的出血の対応と施設連携
  - 新生児対応
- 質の向上：関連学会への参加・研究
- 情報公開：宮城県内の施設紹介
- 宮城県の無痛分娩の統計調査・解析
- 備品整備：気道・血管確保，モニター，記録